

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホーム こすもす
所在地 (電話番号)	久留米市上津町下千束1217番地1 (電話)0942-21-0790
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年2月18日

【情報提供票より】(平成20年1月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算	14.1人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) / 改築
建物構造	鉄骨造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	585 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		986 円

(4) 利用者の概要(平成20年1月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	81 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ツジ胃腸科医院・新古賀病院・聖ルチア病院・サン歯科・三宮整形外科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かで閑静な住宅街の中にあるホームである。また、敷地内の傍が散歩コースになっており、利用者が庭でくつろいだり畑で野菜作り等をしていると、地域の方が立ち寄っていかれ、話も弾みすっかり地域の中に溶け込んでいる様子が伺える。ホーム内も仕切りがなくゆったりとした広さで、利用者の方が集まって楽しいふれあいの時間を過ごされている。各部屋からは慣れ親しんだ成田山の景色が見られ安心できる生活空間となっている。積極的に地域の行事に参加したり、ボランティアの方との交流があり地域に密着したサービスが行われており、利用者の方も穏やかながらも自分の事は自分でやろうという自立心を持ち過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では理念を掲示している場所が分かりにくいとの事で、掲示場所を各ユニットの出入り口と目に付きやすい時計の下に掲示するようにした。また、毎朝職員で理念を唱和するようにした結果、利用者の方からみんなに分かるように大きな字で書いてほしいとの希望があり、ホワイトボードにレイアウトした文字で書き込む工夫をされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の内容については全項目を職員全員に振り分けて担当し、それを元に再度全員で確認しあった。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催しており、町内会長・有識者・家族代表・利用者・地域包括支援センター職員の参加がある。ホームにおける利用者の状況・行事案内等も報告しているが、毎回テーマをホーム長が身近な事や関係ある内容の新聞記事をファイルしたものを議題に取り上げたりしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を各ユニットの入り口に設置している。月1回の支払いの時や面会時に利用者の日々の状況や健康状態を報告している。直接職員やホーム長に要望や意見を言われることもありその都度対応している。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りに参加したり、ボランティアによる踊り等の訪問もあるが、ホームの場所が住宅街の中にあり周辺が地域の方たちの散歩コースになっているため、気軽に声をかけられたり立ち寄られ交流の場となっている。また、近くの小学校からも定期的に来訪され、利用者の方と触れ合う機会があるためか普通に近所の子供たちが遊びに来て利用者にとって楽しい時間を過ごすことができている。地域との交流は盛んに行われている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を十分に理解し、「安心・安全・自立」を基本理念として地域との交流もさかんに行われ地域に溶け込んだホームの運営がされている。	○	地域住民との交流や住み慣れた場所での安心した暮らしがこれからも継続できるよう、具体的に事業所と地域の関係性を謳った理念を加えることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝職員全員で唱和し、理念の共有ができています。利用者を中心として地域や家族との連携やコミュニケーションを大事にしながら、その方らしい自立した生活が過ごせるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアや小学校から来てもらったり、地域の夏祭りに参加している。また、ホームの傍が散歩コースとなっており、近隣の方と挨拶を交わしたり、立ち寄っていかれる事も日常的にある。近所の子供たちも気軽に遊びに来てくれ、折り紙等をして楽しい時間を過ごしてくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価を受けるために評価の意義や目的を職員全員が把握できるよう、各項目ごとに分担して自己評価したものを最後に全員で意見を出し合い、検討し合って作成している。これまでも評価後に職員全員で改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回町内会長・有識者・家族代表・地域包括支援センター職員の参加がある。自己評価の内容についても説明し意見を頂き、サービスの向上に活かしている。特に町内会長と地域包括職員との連携が取れており、この場を契機にして情報交換がされており、地域活動に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの情報はメール便として送付されてくるが、今回は中国冷凍餃子の件があり確認の電話を受けている。事業所の方からは受付に置いているパンフレット等の補充や疑問に思うことや不明な点については出向いたり電話をするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修会に参加してもらい、他の職員には資料を回覧したり、ミーティングで報告し勉強会を開いている。制度については家族や来訪者の目に付きやすい場所に掲示したり、受付にパンフレットを準備し必要な方への相談にも応じている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや面会時に状況報告を行っている。特に変化があった場合には電話連絡を取りしっかりとコミュニケーションが取れるようにしている。ケース記録も希望がある方には見て頂いている。金銭管理は預かり金制度としており、月1回は支払いに来ていただき出納簿に確認のサインを頂くようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットごとに意見箱を設置しているがこれまで利用されたことはない。家族が利用者の思いを代弁される場合や家族としての意見・要望は直接職員やホーム長に相談されており、その場合は早急に対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がスムーズに働けるよう配慮をしており、ここ1年ほど離職者はいない。万一離職がある場合は、代りに入る職員が利用者や馴染みの関係を作るまで、離職者との2人での対応をしている。ユニットごとの異動も馴染みの関係を壊さぬよう、これまで行ってない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり性別・年齢等を理由に採用対象からは排除していない。男性職員や年配の方も多く採用している。特に男性職員は大工仕事などに活躍してもらっている。働きながらの社会参加活動や研修会にも積極的に参加できるようにしており、それを職場の中で活かせるよう支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対しての言葉遣いや接し方についてはには十分気をつけており、日頃から申し送りやミーティング時に伝えており人権教育に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまでも、県や市主催の研修会には積極的に参加しており、参加できなかった職員に対しては後日、資料や報告書を回覧して内容の共有にも努めている。特に今年度からは法人内外での研修会の年間行事を作成し、より一層の職員教育に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、相互研修会に参加したり情報交換を行っている。これからも、サービスの質の向上に向けてインターネットを活用したりして情報交換をやっていくよう努めたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望される方には事業所の見学に来てもらい、季節ごとの行事には案内をして一緒に参加してもらうようにしている。病院から直接利用される方には、職員が事前に面会に行き馴染みの関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は豊かな人生経験を持たれており郷土料理や野菜作りなど、普段の生活の中で教えてもらう事も多い。職員は利用者を人生の先輩として尊敬をもって接している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や習慣、好みなど確認した上で、思いや意向について本人や家族と話し合いをしている。日常生活のケアの中で利用者の言動から、職員は思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアのあり方や課題について、本人や家族とカンファレンスや面会時などに話し合いをしている。また、職員は一人一人のケアプランの担当を決めて状態の把握に努めているが、職員同士や関係機関とも情報を共有し、また意見交換しながらケアプランを作成をしている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化がある時や、日頃のケアの中で事前に変化を予測できる時は、職員全体で意見を出し合いながら、その都度ケアプランの見直しを行い新たに作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の兄弟や家族が居室に宿泊したり、利用者の外泊の支援もしている。訪問看護や訪問歯科など医療との連携を図り、かかりつけ医への通院の支援なども家族からの依頼時は適時対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医についての説明を行い、本人や家族の希望するかかりつけ医を受診している。また、容態急変などの変化が見られる場合は、すぐに家族に確認を取り医療機関と連携して対応し、職員全体で状態の把握に努めている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族と、重度化や終末期について、話し合いや確認をしている。現在、一人重度化した方がいるので訪問看護や医療機関と連携を取りながら、職員全体で重度化にそったケアについて勉強しながら実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日誌などの記録は事務所で行い、机の引き出しに保管している。排泄も事前にチェック表で確認のうえ、利用者本人の耳元でさりげなく声かけし誘導している。日常の言葉かけにも利用者の尊厳を損なわないように接している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食時間も利用者のリズムに合わせて対応している。毎日、散歩される方やその日にしたいことなど、利用者の体調をみて希望に沿って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビを消し、落ち着いた音楽の流れる中で、利用者職員が会話を交えながら一緒に食事をしている。利用者の好みやメニューの希望を聞き、献立を変更することもある。後片付けはそれぞれのできる範囲で行い、テーブル拭きなども自然にされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日午後から夕方に入浴できるよう準備している。利用者に声かけし入浴の意思を確認した上で、見守りや介助等をしている。拒否される方については違う職員が対応したり、時間をおき再度声かけしたりして工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、ピアノを弾いたり自分のお気に入りの歌で畑の手入れをしている。また、裁縫の得意な方は布巾を縫ったり、絵が好きの方は他の方と一緒に花の絵を描いたりして自分の趣味を活かしている。それらの利用者の動きや思いに対して職員はさりげなく支援に努めている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に行ったり、毎日散歩したい方や買い物などその日に希望される外出に対して、体調を考慮しながら、職員は希望される利用者と共に外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	中庭などは、自由に出入りできるように施錠はせず、職員が目配り、気配りをしている。現在玄関の鍵は、1日の中で頻回に出入りされる方があり、危険防止のため適時に施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練をして、そのうち1回は夜間を想定して実施している。管理者や職員は避難場所や経路について把握している。事務所には消防署への直通電話を設置しており、運営推進会議等を通して地域の方へも災害時の協力を依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士による栄養のバランスを考えた献立を作成してもらっている。キザミ食や塩分制限など利用者の状態に合わせて調理し提供している。食事摂取量も毎日チェックし、水分についても1日の飲水回数や必要量の確保に注意をはらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	縦長の広いワンフロアーに畳のコーナー・居間・食堂・台所があり、利用者や職員の動きが掴みやすい作りとなっている。室内は採光も良く、落ち着いた音楽が流れてる。壁面には絨の着物が飾られ、居間の辺りには懐かしい足踏みミシンがあったり、季節の花や木の蔓の籠に観葉植物が飾られている。トイレは夜間は自動点灯する設備もあり、浴室も家庭的な雰囲気である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>運動が好きな利用者の居室にはエルゴメーターがあったり、馴染みの家具や椅子、仏壇等が持ち込まれている。また、居室の壁面には写真や絵が飾られていたり、お気に入りの花瓶やヘルメット等が置かれており、利用者の居心地の良い場所となっている。</p>		